

# SOPHOS

Cybersecurity  
made  
simple.

## Sophos Enterprise Console クイック スタートアップガイド

製品バージョン: 5.5

# 目次

このガイドについて.....	1
インストールするソフトウェア.....	2
導入ステップ.....	3
Enterprise Console のインストーラのダウンロード.....	4
ソフォス製品のライセンスをお持ちの場合.....	4
Enterprise Console を評価使用する場合.....	4
システム要件の確認.....	5
ハードウェアおよび OS.....	5
マイクロソフトのシステムソフトウェア.....	5
ポート要件.....	6
必要なアカウント.....	7
データベース用アカウント.....	7
Update Manager アカウント.....	7
インストールの準備.....	9
Enterprise Console のインストール.....	10
データベースのセキュリティの改善.....	11
追加のリモート管理コンソールのインストール.....	13
保護対策ソフトのダウンロード.....	15
コンピュータグループの作成.....	16
セキュリティポリシーの設定.....	17
ファイアウォールポリシーの設定.....	17
コンピュータの検出.....	18
コンピュータの保護の事前準備.....	19
他社製セキュリティ対策ソフトを削除する準備.....	19
ソフトウェアをインストールできるアカウントがあることの確認.....	19
ウイルス対策ソフトをインストールする準備.....	20
コンピュータの保護.....	21
自動での Windows コンピュータの保護.....	21
手動での Windows コンピュータや Mac の保護.....	22
Linux コンピュータの保護.....	23
ネットワークのセキュリティの状態の確認.....	24
トラブルシューティング.....	25
よく実行するタスクと関連ドキュメント.....	26
テクニカルサポート.....	27
利用条件.....	28

# 1 このガイドについて

このガイドは、Sophosのセキュリティ製品を使用してネットワークを保護する方法について説明します。

このガイドの対象読者は、ソフトウェアを初めてインストールするユーザーです。

アップグレードを行う場合は、「Sophos Enterprise Console アップグレードガイド」をご覧ください。

## その他のドキュメント

ネットワークの規模が大きい場合は、「Sophos Enterprise Console アドバンス スタートアップガイド」に記載されているインストールオプションもご覧ください。

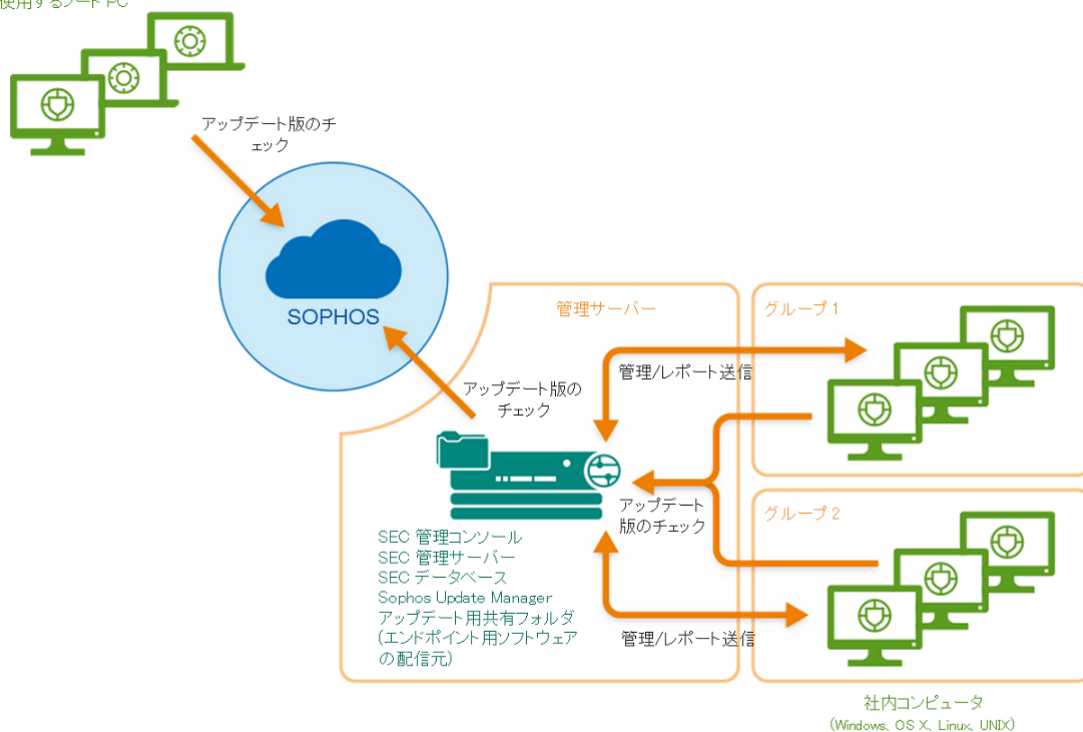
Sophosの製品ドキュメントは次のサイトから入手可能です。 <http://www.sophos.com/ja-jp/support/documentation.aspx>

## 2 インストールするソフトウェア

ネットワークを保護するには次の項目をインストールします。

- **Sophos Enterprise Console:** サーバーにインストールします。ソフォスのセキュリティソフトウェアのインストールや管理を行うコンソールです。
- **ソフォスのセキュリティソフトウェア:** エンドポイントコンピュータにインストールします。コンピュータを脅威から守り、Enterprise Console に警告を送信します。

SEC の管理下にはないスタンドアロンコンピュータや  
社外で使用するノート PC



## 3 導入ステップ

主な導入ステップは次のとおりです。

- Enterprise Console のインストーラをダウンロードする。
- システム要件を確認する。
- 必要なアカウントを作成する。
- インストールの準備をする。
- Enterprise Console をインストールする。
- セキュリティソフトのダウンロードする。
- コンピュータグループを作成する。
- セキュリティポリシーを設定する。
- コンピュータを検出する。
- コンピュータの保護の事前準備をする。
- コンピュータを保護する。
- ネットワークのセキュリティの状態を確認する。

## 4 Enterprise Console のインストーラのダウンロード

### 4.1 ソフォス製品のライセンスをお持ちの場合

1. Sophos ID を使って、次のサイトにログインします。 <https://www.sophos.com/ja-jp/support/downloads.aspx>

**注**

Sophos ID に関する詳細は、[ソフォスのサポートデータベースの文章 111195](#) を参照してください。

2. ダウンロードするためにログインしたことがある場合は、「**製品・アップデート版のダウンロード**」ページが表示されます。

**注**

はじめてログインする場合は、プロフィールが表示されます。「**Endpoint and Server Protection**」をクリックして、「**Downloads and Updates**」をクリックします。

3. 「**Console**」の下で、「」をクリックして、インストーラをダウンロードします。

### 4.2 Enterprise Console を評価使用する場合

1. <https://secure2.sophos.com/ja-jp/products/endpoint-antivirus/free-trial/on-premise.aspx>に進んでください。
2. お客様情報を登録フォームに入力します。  
登録フォームを送信後、評価使用のアカウント情報が表示されます。アカウント情報は、登録フォームに入力したメールアドレス宛てにも送信されます。このアカウントは Enterprise Console をインストールする際に必要です。
3. 「**ダウンロード**」をクリックして、Enterprise Console のインストーラをダウンロードします。

## 5 システム要件の確認

インストールを開始する前に、ハードウェア、OS、およびシステムソフトウェアのシステム要件を確認してください。

### 5.1 ハードウェアおよび OS

本製品のシステム要件は、ソフォスの Web サイトの「システム要件」を参照してください。  
(<https://community.sophos.com/kb/ja-jp/118620>)

すべての SEC のコンポーネントは、専用のコンピュータにインストールすることを推奨します。

### 5.2 マイクロソフトのシステムソフトウェア

のインストールには、データベースソフトなど、特定のマイクロソフトのシステムソフトウェアが必要です。

このようなシステムソフトウェアが対象のサーバーにインストールされていない場合は、の製品インストーラが自動的にシステムソフトウェアのインストールを開始します。ただし、サーバーとシステムソフトウェアに互換性がない場合は手動によるインストールが必要です。

#### 注

必要なシステムソフトウェアをインストール後、コンピュータの再起動が必要となることがあります。詳細は、<https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/65190.aspx>を参照してください。

#### SQL Server のインストール

既存の SQL Server 2005 Express 以降のインスタンスを使用することを選択しない限り、インストーラは自動的に SQL Server 2012 Express Edition サービスパック 4 (SP4) のインストールを開始します。以下の点に注意してください。

- SQL Server はドメイン コントローラ以外のコンピュータにインストールすることを推奨します。

#### .NET Framework のインストール

.NET Framework 4.x がインストールされていない場合は、インストーラが .NET Framework 4.5.2 のインストールを自動的に開始します。

#### 重要

.NET Framework 4.5.2 のインストールの一環として、一部のシステムサービス (IIS Admin Service など) が再起動することがあります。

.NET Framework 4.5.2 のインストール後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。その場合は、インストール後ただちに、またはなるべく早く再起動することを推奨します。

## Microsoft メッセージキューのインストール

MSMQ (Microsoft メッセージキュー) がインストールされていない場合は、インストーラが自動的にインストールを開始します。

### 重要

MSMQ のインストール中、次のサービスが停止します。MSDTC、MSSQLServer、SQLSERVERAGENT。このため、デフォルトの SQL Server データベースとの接続が中断されます。インストール中、これらのサービスが停止しても問題がないことを確認してください。また、操作終了後、サービスが再開したことも確認してください。

## 5.3 ポート要件

では特定のポートが解放されている必要があります。詳細は、次の文章を参照してください。  
<http://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/38385.aspx>



## 6 必要なアカウント

ソフォス製品をインストールする前に、以下のユーザーアカウントを作成する必要があります。

- データベース用アカウント。管理サービスがデータベースに接続するための Windows ユーザーアカウントです。他のソフォスのサービスでも使用されます。  
データベース用アカウントの名前は、**SophosManagement** とすることを推奨します。
- Update Manager アカウント。 が製品アップデート版を配置するフォルダに、エンドポイントコンピュータがアクセスするための Windows ユーザーアカウントです。  
Update Manager アカウントの名前は、**SophosUpdateMgr** とすることを推奨します。

### 注

Windows のセキュリティグループ「Protected Users」のメンバーは、このアカウントに使用できません。マイクロソフト社のガイドラインでは、サービスアカウントをこのグループに含めるべきではないとしています。詳細は、<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/credentials-protection-and-management/protected-users-security-group> を参照してください。サポートされていないため、作成するアカウントをこのグループに追加しないでください。

### 6.1 データベース用アカウント

データベース用アカウントが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Sophos Management Server ( のコンポーネント) のインストール先コンピュータにログオンする権限がある。
- システムの一時ディレクトリ (¥windows¥temp¥ など) に読み取り権限と書き込み権限がある。「Users」グループのメンバーには、デフォルトでこの権限があります。
- ドメインアカウントの場合は、UPN (ユーザープリンシパル名) が関連付けられている。

これ以外に必要な権限およびグループのメンバーシップは、インストール時に自動的に付与されます。

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

- 無期限に設定する。また、その他のログオン制限を指定しない。
- アカウントに管理者権限がない。
- インストール後、アカウントを変更しない。
- アカウント名が **SophosManagement** である。

推奨事項や設定方法については、次の文章を参照してください。 <https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/113954.aspx>

### 6.2 Update Manager アカウント

Update Manager アカウントには、 が製品アップデート版を配置するフォルダへの読み取り権限が必要です。デフォルトの場所は以下です。¥¥[サーバー名]¥SophosUpdate

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

## Sophos Enterprise Console

- 無期限に設定する。また、その他のログオン制限を指定しない。
- アカウントに管理者権限がない。
- ドメインアカウントの場合は、UPN (ユーザープリンシパル名) が関連付けられている。
- アカウント名が **SophosUpdateMgr** である。

推奨事項や設定方法については、次の文章を参照してください。 <https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/113954.aspx>

## 7 インストールの準備

インストールの準備を次の手順で行います。

- Windows OS の製品付属 CD とサービスパック CD があることを確認します。インストール中に必要になる場合があります。
- サーバーでユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、UAC を無効にし、サーバーを再起動します。

### 注

UAC は、インストールを完了し、セキュリティソフトをダウンロードした後で、有効に設定し直すことができます。

## 8 Enterprise Console のインストール

Enterprise Console をインストールする方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console をインストールするコンピュータに管理者権限でログオンします。
  - サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
  - サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。
2. 前述の手順でダウンロードした Enterprise Console のインストーラを参照します。
3. インストーラをダブルクリックします。
4. 「**インストール**」ボタンが表示されたらクリックします。  
インストールファイルがコンピュータにコピーされ、ウィザードが起動します。
5. ウィザードの指示に従ってインストールを行います。次の手順を実行してください。
  - a) 可能な限り、デフォルトの設定をそのまま選択します。
  - b) 「**コンポーネントの選択**」ページで、すべてのコンポーネントが選択されていることを確認します。
  - c) 「**システムプロパティの確認**」ページが表示されたら、警告やエラーの内容を確認し、必要な対応を行います。システムチェックの結果についての詳細は、次の文章を参照してください。  
<https://community.sophos.com/kb/ja-JP/113945>
  - d) 「**データベースの詳細**」ページに、[データベース用アカウント](#) (p. 7) で作成したデータベース用アカウントの詳細を入力します。
  - e) 「**Sophos Update Manager のアカウント情報**」ページに、[Update Manager アカウント](#) (p. 7) で作成した Update Manager アカウントの詳細を入力します。
6. インストールが完了すると、再起動するようメッセージが表示されることがあります。「**はい**」または「**完了**」をクリックします。

### 重要

インストール後、はじめてログオン (または再起動) すると、自動的にウィザードが起動するのでキャンセルし、先にダウンロードしたリダイレクト用のツールをインストールします。

### 注

ソフォス監査データベース「**SophosSecurity**」は、ソフォス監査機能を使用しない場合でも、他の Enterprise Console のデータベースと共に稼働させておく必要があります。このデータベースは、監査イベントのログ記録の他、強化されたアクセスコントロール機能のためにも必要です。

## 9 データベースのセキュリティの改善

### データベースを監査する

データベースに組み込まれている保護機能の他に、SQL Server インスタンスに対して追加の保護レイヤーを設定し (未設定の場合)、ユーザーアクティビティや SQL Server への変更を監査することを推奨します。

たとえば、SQL Server 2008 Enterprise Edition を使用している場合は、SQL Server Audit 機能を使用できます。旧バージョンの SQL Server では、ビルトインのトレース機能を使用して、ログインの監査、トリガーを使用した監査、およびイベントの監査を実行できます。

SQL Server システムでのアクティビティおよび変更を監査するために使用できる機能の詳細は、該当するバージョンの SQL Server ドキュメントを参照してください。例:

- [SQL Server Audit \(データベース エンジン\)](#)
- [監査 \(データベース エンジン\)、SQL Server 2008 R2](#)
- [SQL Server 2008 の監査機能 \(英語\)](#)
- [監査 \(データベース エンジン\)、SQL Server 2008](#)

### データベースへの接続を暗号化する

クライアントと データベースの接続を暗号化することを強く推奨します。詳細は、次の SQL Server のドキュメントを参照してください。

- [データベース エンジンへの暗号化接続の有効化 \(SQL Server 構成マネージャー\)](#)
- [SQL Server 2008 R2 への暗号化接続](#)
- [Microsoft 管理コンソールで SQL Server インスタンス用に SSL 暗号化を有効にする方法](#)

### データベースのバックアップへのアクセスをコントロールする

データベースのバックアップやコピーにはアクセス制限を設定し、適切なアクセスが行われるようコントロールしてください。これによって、未認証のユーザーがファイルにアクセスしたり、改ざん、または誤って削除したりすることを防止できます。

#### 注

このセクションに記載されているリンクの参照先は第三者によって管理されている情報であり、リンクはお客様の便宜を図る目的に限って提供しています。ソフォスでは、リンク切れなどについて定期的に確認していますが、第三者の Web サイトによって予告なしにリンクが変更される場合があります。

### データベース接続のチェック

5.5.1 のインストーラの実行時に、データベースの接続がチェックされ (インストールやアップグレードの前に行われます)、TLS 1.2 でデータベースに接続できるかどうか判断されます。

TLS 1.2 を使用してデータベースに接続するようするには、**CheckDBConnection.exe** ツールを使用します。接続チェックの結果が表示され、手動で変更を行うことができます。

詳細は、[サポートデータベースの文章 127521](#) を参照してください。

# 10 追加のリモート管理コンソールのインストール

別のコンピュータに追加の 管理コンソールのインスタンスをインストールすると、ネットワーク上のコンピュータを効率よく管理できます。必要ない場合は、このセクションは読み飛ばしてください。

## 重要

管理サーバー上で実行されているのと同じバージョンの をインストールする必要があります。

## 注

新しく追加したコンソールは、管理サーバーをインストールしたサーバーにアクセスする必要があります。そのサーバーでファイアウォールを使用している場合、コンソールからアクセスできるようにファイアウォールの設定が必要なことがあります。リモートコンソールから管理サーバーへの DCOM トラフィックを許可するファイアウォールルールを追加する方法は、[サポートデータベースの文章 49028](#) を参照してください。

追加の管理コンソールをインストールする方法は次のとおりです。

ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、無効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降 または Windows Vista 以降の場合)。UAC は管理コンソールをインストールした後で、有効に設定し直せます。

管理者権限でログオンします。

- コンピュータがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
  - コンピュータがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。
1. ダウンロードした のインストーラを参照し、ダブルクリックします。
  2. デフォルトのインストール先フォルダ、または任意のフォルダにインストールファイルを展開します。このコンピュータ上のフォルダのみ指定できます。

インストール ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

- a) 「**コンポーネントの選択**」ページで、「**管理コンソール**」を選択し、「**管理サーバー**」と「**データベース**」の選択を外します。
- b) 「**管理サーバー**」ページで、管理サーバーをインストールしたサーバーの名前を入力します。

## 注

管理サーバーをインストールする際にポートを変更した場合は、必ず、このページでも同じポートを指定する必要があります。

- c) ドメイン環境の場合、データベースへの接続に使用するユーザーアカウントを入力します。

このアカウントは データベースをインストールする際に入力したアカウントです。また、の管理サーバーをインストールしたサーバーの Sophos Management Host サービスでも同じアカウントが使用されています。

ウィザードが完了したら、ログオフ、またはコンピュータを再起動します (ウィザードの最後の画面にどちらかのオプションが表示されます)。ログインし直すと、 が自動的に開きます。「**セキュリティソフトのダウンロード ウィザード**」が起動した場合は、キャンセルします。

インストールの前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

追加の管理コンソールの使用を他のユーザーに許可するには、次の手順を実行してください。

- 管理サーバーをインストールしたサーバー上の **Sophos Console Administrators** グループと、**Distributed COM Users** グループに、ユーザーを追加する。
- 少なくとも 1つの ロールとサブ管理サイトに、ユーザーを追加する。



# 11 保護対策ソフトのダウンロード

インストール後、はじめてログオン (または再起動) すると、Enterprise Console が自動的に開き、ウィザードが起動します。

## 注

リモート デスクトップを使用してインストールした場合、コンソールは自動的に開かないので、「スタート」メニューから開いてください。

ウィザードの指示に従い、保護対策ソフトウェアの選択とダウンロードを行います。次の手順を実行してください。

1. 「**ソフォス ダウンロード用アカウントの詳細**」ページで、ライセンスの別表 (License Schedule) に記載されているユーザー名とパスワードを入力します。プロキシサーバー経由でネットワークにアクセスする場合は、「**プロキシ経由でサーバーにアクセスする**」チェックボックスを選択し、プロキシの詳細を入力します。
2. 「**OS の選択**」ページで、今すぐ保護する OS のみ選択します。  
「**次へ**」をクリックすると、Enterprise Console が選択したソフトウェアのダウンロードを開始します。
3. 「**ソフトウェアをダウンロードしています**」ダイアログボックスに、ダウンロードの進行状況が表示されます。随時、「**次へ**」をクリックします。
4. Enterprise Console で既存の Active Directory のコンピュータのグループを利用する場合は、「**Active Directory からコンピュータをインポートします**」ページで、「**コンピュータグループを設定する**」を選択します。

## 注

Windows 8 コンピュータの保護については以下のサイトを参照してください。<https://community.sophos.com/kb/ja-jp/118261>

インストールの前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

## 12 コンピュータグループの作成

コンピュータを保護・管理する前に、コンピュータのグループを作成する必要があります。

1. を開きます。
2. コンソールの左側にある「**グループ**」ペインで、最上部に表示されているサーバーが選択されていることを確認します。
3. ツールバーで、「**グループの作成**」アイコンをクリックします。  
「新規グループ」がリストに追加され、グループ名がハイライト表示されます。
4. グループ名を入力します。

さらにグループを作成する場合は、左ペインで次のように操作します。トップレベルのグループを再度作成するには、ツリー最上部のサーバー名を選択します。サブグループを作成するには、既存のグループ名を選択します。次に、先程と同じ手順でグループを作成し、グループ名を入力します。

## 13 セキュリティポリシーの設定

Enterprise Console は、各種の「デフォルト」というセキュリティポリシーをコンピュータのグループに適用します。これらのデフォルトポリシーに必要な設定は以下のとおりです。これ以外の変更は任意です。

- Sophos Client Firewall を使用する場合、コンピュータにファイアウォールをインストールする前にファイアウォールポリシーを設定することを推奨します。
- アプリケーション コントロール、デバイスコントロール、パッチまたは Web コントロール機能を使用する場合は、該当するポリシーを編集してください。この操作は、いつ行っても構いません。

### 13.1 ファイアウォールポリシーの設定

#### 注

ファイアウォールのインストール中、ネットワークアダプタが一時的に切断されます。また、リモート デスクトップなどのネットワークアプリケーションが切断されることがあります。

デフォルトの設定では、ファイアウォールは重要な接続以外はすべて遮断します。したがって、各コンピュータに設定を適用して保護する前に、ファイアウォール ポリシーの設定を行う必要があります。

1. 「**ポリシー**」ペインで、「**ファイアウォール**」を右クリックし、「**ポリシーの作成**」を選択します。  
「**新規ポリシー**」がリストに追加され、ポリシー名がハイライト表示されます。使用するグループ名を入力します。
2. ポリシーをダブルクリックして編集します。  
ウィザードが起動します。
3. 「**ファイアウォールのポリシー ウィザード**」で、次のように設定することを推奨します。
  - a) 「**ファイアウォールの環境設定**」ページで、接続場所に応じて、異なるファイアウォールの設定を使い分ける場合以外は、「**1種類の設定 (固定マシン用)**」を選択します。
  - b) 「**操作モード**」ページで、「**受信トラフィックをブロックし、送信トラフィックを許可する**」を選択します。
  - c) 「**ファイルとプリンタの共有**」ページで、「**ファイルとプリンタの共有を許可する**」を選択します。

## 14 コンピュータの検出

「**セキュリティソフトのダウンロード**」ウィザードを使用して、(Active Directory のグループを基に) コンピュータグループを設定した場合は、ここで説明する操作は必要ありません。[コンピュータの保護の事前準備](#) (p. 19)に進んでください。

Enterprise Console でコンピュータの保護と管理を行うには、まずネットワーク上のコンピュータを検出する必要があります。

1. ツールバーにある「**コンピュータの検出**」アイコンをクリックします。
2. コンピュータの検索方法を選択してください。
3. 適宜、アカウントの詳細を入力し、検索場所を指定します。

「**検出**」オプションのいずれかを選択すると、検出されたコンピュータは「**グループ外のコンピュータ**」フォルダに追加されます。

## 15 コンピュータの保護の事前準備

コンピュータの保護を開始する前に、コンピュータで以下のような準備をする必要があります。

- 他社製セキュリティ対策ソフトを削除するための準備をする。
- ソフトウェアをインストールできるアカウントがあることを確認する。
- ウイルス対策ソフトをインストールするための準備をする。

### 15.1 他社製セキュリティ対策ソフトを削除する準備

現在インストールされているセキュリティソフトをアンインストールする場合は、次の手順を実行します。

- コンピュータで他社製のウイルス対策ソフトを稼動している場合は、GUI を閉じてください。
- コンピュータで他社製のファイアウォールや HIPS 製品を稼動している場合は、これらのソフトウェアを無効にするか、またはソフォス製品のインストーラの起動を許可するように設定してください。

他社製のアップデートツールを実行している場合は、削除した方がよい場合があります。詳細は、Enterprise Console ヘルプの「コンピュータの保護」セクションの「他社製セキュリティ対策ソフトを削除する」を参照してください。

### 15.2 ソフトウェアをインストールできるアカウントがあることの確認

セキュリティソフトのインストールに使用できる Windows ユーザーアカウントを入力する画面が表示されます。次の条件を満たしている必要があります。

- 保護するコンピュータへのローカル管理者権限がある。
- Sophos Enterprise Console をインストールしたコンピュータにログオンできる。
- コンピュータのアップデート元に対する読み取り許可がある。アップデート元がどこかを確認するには、「**ポリシー**」ペインで、「**アップデート**」をダブルクリックし、次に、「**デフォルト**」をダブルクリックします。

#### 注

「**ポリシー**」ペイン (画面左下) が表示されていない場合は、「**表示**」メニューで、「**エンドポイント**」をクリックします。

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

- ドメイン管理者アカウントでなく、制約付き委任が構成されている。
- がインストールされているコンピュータに対して、管理者権限やシステム特権がない。
- コンピュータのアップデート元に対する書き込みのアクセス許可や変更のアクセス許可がない。

- コンピュータの保護のみに使用し、一般的な管理タスクには使用していない。
- 頻繁にパスワードを変更している。

## 15.3 ウイルス対策ソフトをインストールする準備

ウイルス対策ソフトをインストールする前に、コンピュータの準備を行う必要があります。詳細は、ソフォス エンドポイント展開ガイド (英語) ([https://docs.sophos.com/esg/enterprise-console/tools/deployment\\_guide/en-us/index.html](https://docs.sophos.com/esg/enterprise-console/tools/deployment_guide/en-us/index.html)) の「コンピュータへの導入の準備をする」セクションを参照してください。

保護するコンピュータでは、ファイアウォールを有効化することを推奨します。

### 注

保護を完了し、そのコンピュータが「管理対象コンピュータ」として表示されたら、コンピュータへのリモートインストールを許可するために作成した、すべてのファイアウォールの例外設定を無効に設定しなおすことを検討してください。

## 16 コンピュータの保護

このセクションでは、次の項目について説明しています。

- Windows コンピュータを自動保護する。
- Windows コンピュータや Mac を手動で保護する。
- Linux コンピュータを保護する (ライセンスに含まれている場合)。

任意のツールやスクリプトを使用して Windows コンピュータに保護機能をインストールすることもできます。詳細は、<https://community.sophos.com/kb/ja-jp/114191>を参照してください。

### 16.1 自動での Windows コンピュータの保護

コンピュータを保護する方法は次のとおりです。

1. 保護するコンピュータを選択します。
2. 右クリックして、「**コンピュータの保護**」を選択します。

#### 注

コンピュータが「**グループ外のコンピュータ**」フォルダに表示されている場合は、適切なグループにドラッグします。

3. ウィザードの指示に従ってソフォスのセキュリティソフトをインストールします。次の手順を実行してください。
  - a) 「**ようこそ**」ページで、「**次へ**」をクリックします。
  - b) 「**インストールの種類**」ページで「**保護機能**」は選択された状態のままにしておきます。
  - c) 「**機能の選択**」ページで、任意の機能のインストールを選択できます。  
現行バージョンのファイアウォール (Endpoint Security and Control 10.2 以前に含まれる) は、Windows 8 コンピュータにインストールできません。
  - d) 「**保護のサマリー**」ページで、インストール中に問題が発生したかどうか確認します。詳細は、[トラブルシューティング](#) (p. 25)を参照してください。
  - e) 「**アカウント情報**」ダイアログボックスで、各コンピュータへのソフトウェアのインストールに使用できる Windows ユーザーアカウントの詳細を入力します。

インストールは全コンピュータで同時に開始されないため、操作がすべて完了するまで時間がかかることがあります。

インストール完了後、コンピュータのリストをもう一度確認します。「**オンアクセス**」カラムに「**アクティブ**」と表示されれば、コンピュータでオンアクセスのウイルス検索が実行されています。

## 16.2 手動での Windows コンピュータや Mac の保護

### 16.2.1 インストーラの保存場所の表示

Enterprise Console で保護できないコンピュータがある場合は、セキュリティソフトがダウンロードされている共有フォルダ内のインストーラを手動で実行して保護します。このフォルダの通称は「インストーラの場所」です。

インストーラの保存場所を表示する方法は次のとおりです。

1. Enterprise Console の「表示」メニューで、「**インストーラの場所**」をクリックします。インストーラの場所の一覧が表示されます。
2. 保護を実施する各 OS のインストーラの場所をメモします。

### 16.2.2 手動での Windows コンピュータの保護

保護を実施するコンピュータで管理者アカウントを使用する必要があります。

1. 保護を実施する各コンピュータで、インストーラの場所を参照し、setup.exe をダブルクリックします。
2. 「ソフォス - セットアップ」ダイアログボックスの「**ユーザーアカウントの詳細**」に、先ほど作成した Update Manager アカウント **SophosUpdateMgr** の詳細を入力します。が製品アップデート版を配置する共有フォルダにアクセスする際に、このアカウントを使用します。Update Manager アカウント (p. 7) で作成したアカウントです。

#### ヒント

「インストーラの場所」にアクセスできる、権限の低い任意のアカウントを使用することもできます。後で、によって正しいアカウントの詳細を含むアップデートポリシーが適用されます。

#### 注

setup.exe ファイルで使用するコマンドラインパラメータについての詳細は、次の文章を参照してください。 <https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/12570.aspx>

### 16.2.3 Mac の保護

保護を実施する Mac で管理者アカウントを使用する必要があります。

1. 保護を実施する各 Mac で、インストーラの場所を参照します。Sophos Installer.app インストーラファイルおよび Sophos Installer Components ディレクトリを任意の場所 (デスクトップなど) にコピーし、ダブルクリックします。  
ウィザードの指示に従ってインストールを行います。
2. オプションはデフォルトの設定をそのまま選択します。メッセージが表示されたら、Mac でソフトウェアのインストールに使用できるユーザーアカウントを入力します。



## 16.3 Linux コンピュータの保護

Linux コンピュータの保護がライセンスで許諾されている場合は、その方法の詳細について、「Enterprise Console スタートアップガイド Linux/UNIX 版」を参照してください。

## 17 ネットワークのセキュリティの状態の確認

でネットワークのセキュリティの状態を確認するには次の手順を実行します。

メニューバーの「**ダッシュボード**」アイコン (ダッシュボードが表示されていない場合は) をクリックします。

ダッシュボードには次の情報が表示されます。

- 「警告を発したコンピュータ」の台数。
- 「最新版が適用されていないコンピュータ」の台数。
- 「ポリシーと異なるコンピュータ」の台数。

## 18 トラブルシューティング

「コンピュータの保護」ウィザードを実行した際に、セキュリティソフトのインストールに失敗することがありますが、考えられる原因は次のとおりです。

- 使用している OS で自動インストールを実行することができない。この場合は、手動でインストールを行います。他の OS の保護がライセンスで許諾されている場合は、その詳細について「スタートアップガイド Linux/UNIX 版」を参照してください。
- OS が認識されない。これは、コンピュータの検索を行った際に、「ドメイン¥ユーザー名」形式でユーザ名を入力しなかったことが原因の場合があります。
- セキュリティ対策ソフトを展開するために必要なアクセスが、ファイアウォールのルールによってブロックされている。

## 19 よく実行するタスクと関連ドキュメント

よく実行するタスクの操作手順は、次のドキュメントを参照してください。

Sophos Enterprise Console のドキュメントは、<https://www.sophos.com/ja-jp/support/documentation/enterprise-console.aspx> よりご覧になれます。

タスク	参照するドキュメント
スタンドアロン コンピュータを保護する スタンドアロン コンピュータを保護する	Enterprise Console <a href="#">アドバンス スタートアップガイド</a> 、 <a href="#">スタンドアロン コンピュータの保護</a>
Enterprise Console ポリシーを設定する	Enterprise Console ヘルプ: <a href="#">ポリシーの設定</a>
警告に対処する	Enterprise Console ヘルプ: <a href="#">警告やエラーに対処する</a>
コンピュータをクリーンアップする	Enterprise Console ヘルプ: <a href="#">コンピュータを直ちにクリーンアップする</a>
Enterprise Console のレポートを作成する	Enterprise Console ヘルプ: <a href="#">レポートの作成</a>

## 20 テクニカルサポート

ソフォス製品のテクニカルサポートは、次のような形でご提供しております。

- ユーザー コミュニティ サイト「Sophos Community」(英語) ([community.sophos.com/](https://community.sophos.com/)) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォス サポートデータベースのご利用。 [www.sophos.com/ja-jp/support.aspx](https://www.sophos.com/ja-jp/support.aspx)
- 製品ドキュメントのダウンロード。 [www.sophos.com/ja-jp/support/documentation.aspx](https://www.sophos.com/ja-jp/support/documentation.aspx)
- オンラインでのお問い合わせ。 <https://secure2.sophos.com/ja-jp/support/contact-support/support-query.aspx>

## 21 利用条件

Copyright © 2018 .All rights reserved.この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

、および は、および の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。